

### GABAの生理機能 その7-ヒト自律神経系への影響

○酒井 美智子、寺島 建彦<sup>1</sup>、堀江 建二<sup>2</sup>、金 武祚<sup>2</sup>、横越 英彦<sup>3</sup>（静岡県大院・生活健康・食栄、<sup>1</sup>静岡茶試、<sup>2</sup>ファーマフーズ研究所、<sup>3</sup>静大・食栄科）

#### 【目的】

これまでにも、様々な食物に含まれ、また脳内に多量に存在するアミノ酸として知られるGABA (γ-アミノ酪酸) の生理機能に関して多方面から研究が行なわれてきた。本研究では、GABAを摂取した場合の生体への影響、中でも、興奮・鎮静といった機能を司る自律神経へ、どのような影響が現れるのか調べることを目的とした。

#### 【方法と結果】

自律神経活動については、浜松ファトニクス社製のイリスコーダーを用いた対光反応を指標とし測定した。健常な男女にGABAを服用させ、GABA服用前と服用後30分、60分、90分後の瞳孔面積等の変化を経時的に測定した。サンプルとしてGABA高含有食品素材『ファーマギャバ』（GABAとして500mg）を用い、また、コントロールにはファーマギャバに使用されているデキストリンを用いた。その結果、GABA服用による瞳孔面積等の指標に変化が観察され、副交感神経亢進状態になることが示唆された。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・